



患者さん 地域の皆さんとの
コミュニケーション情報紙

済生 みと



写真 ERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)を用いての胆管の治療

NO. **44**
2021
Winter

特集

消化器センターの 診療紹介



恩賜 財団 **済生会 水戸済生会総合病院**

〒311-4198 水戸市双葉台3丁目3番10
TEL:029-254-5151 FAX:029-254-0502

右のQRコードからアクセスし
当院のホームページを
ご覧いただけます。



メスを使わない手術

水戸済生会総合病院

副院長 倉岡 節夫



矛盾している？従来手術と言えは生身を大きく切られて、手術の後の痛みも想像するだけで耐え難く、今まで通りの日常生活に戻るの心配された向きも多いと思います。中には病気に勝った勲章と絆がる方もいますが、傷跡は一生残りケロイドになったりするといつまでもヒリヒリする痛みや痒みがまた悩みの種です。

最近の心臓や血管の手術の多くは針で血管を刺して細い管を使う手術が主流になっています。皆様御存知の通り狭心症の手術は手首の動脈を刺すだけで行われて久しいし、今では心臓の中の大動脈弁の人工弁移植手術も足のつけ根の動脈を刺すだけで行えます。多くの不整脈の手術、或は心臓を原因とする脳梗塞を防ぐ手術も、ついには僧帽弁逆流の手術まで血管に入れた管の操作でできるようになりました。

このコロナ禍の中で街の多くの静脈瘤専門クリニックは患者不足の中で収益がなくなり閉院に追い込まれました。当院では2020年5月から足のむくみやこむらがえり、血流の悪化に伴う二次的な皮膚の病気でお悩みの方々の静脈瘤に対してグルー治療を行っています。瞬間接着剤を0.1mlずつ3cm間隔で静脈の中に注入する方法です。もちろん入院は必要ありませんし、手術の後に包帯を巻いたり高額な医療用スト

キングを購入する必要はありません。平均33分で終了し、そのまま職場や自宅に歩いて戻っていただけます。手術成功率は100%です。痛みは全くなく麻酔も必要ありません。残念ながららつけまつげの接着剤にアレルギーのある方は遠慮していただいています。

胸やおなかの10cmに近い大きな大動脈瘤(こぶ)も胸やおなかを全く切開せずに、足のつけ根の動脈に管を刺すだけで手術できます。実際大きなこぶを取り出す訳ではありませんが、人工血管を被ったバネで作った筒をこぶの中に挿入するだけです。血流が筒の中だけ流れれば、こぶには圧力がかからなくなり次第に縮小しなかには消失する方もいます。手術した管を抜いた後は特殊な器材で上手に血止めしますので御安心下さい。翌朝から普通に歩いて食事ができ平均4日後に退院します。

皆様の生活様式に合わせて負担の少ない手術治療をとり入れています。コロナ禍は私達の価値観や社会のあり方にも大きな変化をもたらしました。小さな幸せへの感謝や何気ない日常の大切さに気づかされた私達は、ほんの少しだけ優しくなっているのかもしれない。私達もより優しい手術を行ってひとりひとりの幸福度を上げられる医療を続けていきたいと思ひます。



水戸市医師会病棟・水戸済生会総合病院 症例検討会を開催しています

12月1日、当院丹野ホールにて、水戸市医師会病棟と当院合同の症例検討会が開催されました。

当院では、水戸市医師会と共同運営する開放型病棟を平成元年から開設していますが、この症例検討会は、病棟を利用する水戸市医師会所属の先生方との相互研鑽の場を設けることを目的に開始されたものです。

1月・5月を除く毎月1回第1水曜日(2月、9月は第2水曜日)に開催され、当院医師からの症例発表とミニレクチャー、それらをテーマとしたディスカッションを主な内容としています。

今年初めには通算開催数が300回を超え、開催を重ねる中で参加対象の範囲も拡大してきました。現在は広く当院連携医療機関の先生方にも参加を呼びかけています。

一昨年来、コロナ禍の中で幾度か中止を余儀なくされましたが、開催内容の一層の充実を図り、感染対策を十分に施しながら今後も継続開催していきます。



第308回開催のこの日は、特別レクチャーとして、国立病院機構茨城東病院長(内科診療部呼吸器内科)の齋藤武文先生をお迎えし、「外国生まれ結核について」の演題で講演いただきました。



講演に先立ち、当院消化器内科の佐久間大樹医師が症例発表。演題は「完全内臓逆位症を伴う胆管炎の一例」



症例検討会では、毎回、自由な雰囲気で見聞交換が行われます。



本件に関するお問い合わせは
地域医療連携室
水戸市医師会病棟秘書
栗田まで
☎ 029(254)9067 直通

目指すのは「とりあえず 水戸済生会の 消化器に送っておけば大丈夫！」

茨城県は、全国的にも珍しく県庁所在地から離れた地域に医学部のある県です。そのため、水戸市は県庁所在地でありながら医療人材が不十分な地域です。

当センターでは茨城県の県北、県央地域の消化器疾患において、医療難民が出ることがないように、地域の要となるように日々精進しております。



水戸済生会総合病院
消化器内科部長
金野 直言

当センターが対応可能な領域

ほぼすべての領域をカバー

2021年にフジフィルム社のダブルバルーン内視鏡を導入したことにより、消化器領域における、ほぼすべての領域をカバーできるようになりました。重症膵炎後の合併症に対するEUS（超音波内視鏡）下治療や胆道鏡を用いた超巨大胆管結石などの治療も可能で

す。特に肝胆道系領域については他院での治療中の合併症についても対応しておりますし、肝硬変患者の癌・腹水・静脈瘤の複合する合併症についても積極的に治療を行っております。IBD（炎症性腸疾患）診療についてはセンター長 柏村の専門領域でもあり、センター長以下若手医師もチーム医療での指導の下で積極的に治療にあたっております。当院で対応可能かご心配な際は当院の地域医療連携室までご連絡いただけましたら速やかにお返事いたします。



消化器内科の医師チーム。着座右から2人目が仁平武副院長。左が柏村浩消化器センター長。

当センターの取り組み

高度医療・チームワーク・地域貢献

1 チーム医療の徹底

診療は常にチームで行うようにし、週に2回定期的にチームカンファレンスを行っています。主治医だけでなく、チームで患者さんを診ることで、抜けのない治療を実践し、併せて若手医師の教育にもつなげています。



2 緊急治療時の安全の担保

治療時は緊急時も含めて、必ず専門医あるいは指導医を含む二名以上で治療を行います。

3 高度医療機器の確保

胆道鏡

当センターではポストン社のSpyGlassDS（写真）を保有しております。これまで巨大胆管結石など内視鏡治療困難で外科的治療になってしまっていた患者様へも内視鏡で治療を行えるようになりました。



ホット・アクシオス・システム

膵臓やその周辺に生じた嚢胞に対する治療を行います。従来の治療法に比べて、患者さんの体への負担が少なくなります。



超音波内視鏡

当センターでは観察用のラジアル型超音波内視鏡、観察に加えて穿刺治療が可能なコンベックス型超音波内視鏡（写真は先端部）を保有しており、検査および治療を積極的に行っております。特に重症膵炎後の被包化壊死については積極的に内科的治療を行っております。内視鏡的胆管ドレナージ（液体を排出する）が難しい症例に対する超音波内視鏡下胆道ドレナージについても取り組んでおります。



小腸鏡

フジフィルム社の処置用ダブルバルーン内視鏡（写真）を擁し、胃切除後の胆道系治療、小腸出血、IBD（潰瘍性大腸炎、クローン病など）の診療などに使用しています。



4 超高齢者への内視鏡治療

当センターでは治療の年齢に上限を設けておりません。ご本人のADL（日常生活動作）や治療の必要性などを加味して治療適応を検討し、「人生100年時代」に対応すべてく90歳以上の超高齢者であっても内視鏡治療を行っております。胆管炎などの緊急疾患については高齢者でのリスクは高まりますが、ご説明の上で慎重に内視鏡治療を行っております。2020年度は90歳以上の患者様に延べ153件の内視鏡検査および治療を行っており、最高齢は99歳で胆道治療でした。単に検査を行うだけでなく、ESD（内視鏡を用いた粘膜下層の剥離）やERCP（内視鏡を用いた胆管・膵管の造影検査）も状態に応じて積極的に行っております。

5 内科と外科の連携

週に1度の内科外科合同カンファレンス（写真）にて連携を図っております。当院の外科ではもとより腹腔鏡下手術を積極的に取り組んでいますが、2020年より内視鏡・腹腔鏡合同胃局所切除手術も合同で行うようになりGIST（消化管間質腫瘍）などの胃粘膜下腫瘍に対する更なる低侵襲手術が可能となりました。内科の治療件数増加に伴い、外科の人員増員も相まって、外科でも年々手術件数が増加しており、内科外科の連携をより密にしながら診療に励んでおります。内科と外科の仲が良い、というのも私たちの売りです！



6 救急対応の強化

お断りをしないことは当然のことですが、加えて緊急の紹介を引き受ける窓口を明確にすることで、受け入れ決定を迅速に行えるようにしています。

7 オールラウンダー医師の育成

当センターでは若手医師は専門分野を固定せず、消化器疾患すべてを扱えるようチーム内での協力・教育のもと幅広く患者を受け持っております。そのため幅広く経験を積むことができ、地域の即戦力として日々成長しています。

8 地域医療への思い

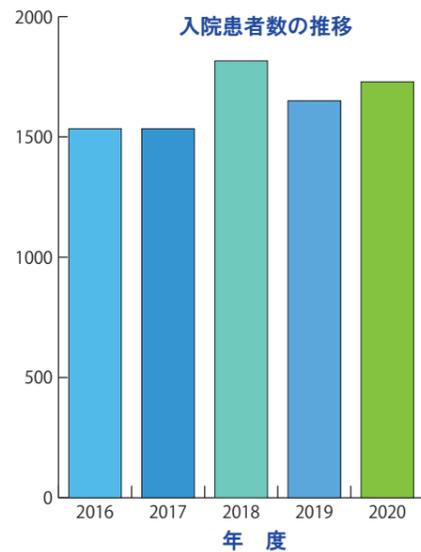
当科は地域の医療を守りたい、という強い思いから消化器疾患の対応だけにとどまらず、当センターから2名の医師が新型コロナ診療チームのメンバーとして地域のために尽力しております。

当センターでは「水戸地域はもとより、茨城県央・県北地域から医療難民を出さない！」を合言葉に一丸となって診療に取り組んでおります。お困りごとの際にはいつでも当センターへご紹介ください。患者様のために最善を尽くします！



診療の現場では、複数の医師、診療放射線技師、看護師など多職種のスタッフが緊密に意思疎通を図りながら、それぞれの専門分野で力を尽くします。当センターでは、スタッフ間の連携の良さが自慢です。

消化器内科の入院患者・症例数



症 例	患者数 (人: 下段は年度)				
	2016	2017	2018	2019	2020
食道疾患	52	40	51	42	54
胃疾患	219	201	272	210	195
小腸疾患	37	43	51	39	44
大腸疾患	524	530	558	532	594
肝疾患	240	224	199	194	174
胆道疾患	245	257	332	310	320
膵疾患	91	93	109	123	139
その他	126	146	244	200	209
合計	1,534	1,534	1,816	1,650	1,729

- 当院ホームページにて消化器センターの診療内容を詳しく紹介しています。
- 「外科」の診療内容は、当紙「済生みと」No43 特集欄で紹介しています。あわせて御覧ください。(当院ホームページからPDFダウンロード可) → のQRコードでアクセスできます。



緒方内科循環器クリニック

院長 緒方 憲一 先生



このたび茨城町長岡で緒方内科循環器クリニックを開院いたしました緒方憲一です。私の専門の診療科は循環器内科です。

大学病院勤務中は心房細動などの不整脈、心不全、狭心症、心筋梗塞、静脈血栓症などの救急治療や高度専門治療を行っていました。また循環器疾患だけではなく高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病が心臓や血管に及ぼす影響を研究していました。

そのため、外来診療では単に血圧、血糖、コレステロールを下げるのが目的ではなく心臓や血管、脳の病気になりにくい生活習慣病治療を目指します。

9年間の桜ヶ丘クリニック勤務経験から地域の特性、生活習慣に即した治療を考えてまいります。特にご高齢の方は同時に多くの病気をもっているため心臓や血管以外の病気にも留意しできる限り治療いたします。当院でできない検査や治療は他の医療機関と適切な連携をとってまいります。大きな病院にはかかりにくいとき、ちょっと怖くてほかでは聞きにくいことでも気軽に相談できるホームドクターを目指してまいります。



診療時間

※休診日: 土・日・祝

	月	火	水	木	金
09:00~12:00	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方
				長戸	長戸
14:00~17:30	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方
				長戸	

診療科目 循環器内科・内科
*受付時間は、各回診療時間の30分前まで

029-303-7812 *受付 9:00~17:30 (休診日 土・日・祝)

詳しい内容は当院ホームページで
<http://ogata-circ.com>

Access アクセス

6号国道を土浦方面からお越しになる場合



6号国道を日立方面からお越しになる場合



〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3091-2

